



*Dishes of
Underglaze Iron
Painting
in Seto*

瀬戸蔵ミュージアム企画展

瀬戸の鉄絵皿



2024年
1.20_土 - 4.14_日

[開館時間] 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

[入館料] 一般520円 高校生・大学生・65歳以上310円 ※団体割引あり

中学生以下・妊婦・各種障害者手帳を持参する方(マイロID可)1名につき、当該手帳持参者とその介助者1名は無料(各種手帳を提示)

[会場] 瀬戸蔵ミュージアム 企画展示室 [休館日] 1月22日(月)・2月26日(月)・3月18日(月)

[主催] 瀬戸蔵ミュージアム、(公財)瀬戸市文化振興財団

写真 / 左上 - 鯉図大皿 文化13年(1816) 右上 - 水禽文皿 江戸時代後期(19世紀前期) 右下 - 馬の目皿 江戸時代後期(19世紀中期) 下 - 山水図大皿(横井金谷画) 江戸時代後期(19世紀前期)

 瀬戸蔵ミュージアム
SETO-GURU MUSEUM
〒469-0813 愛知県瀬戸市蔵所町1番地の1 TEL:(0561)97-1190
URL: <http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2011031500146/>



(交通アクセス)
名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から徒歩5分
東海環状自動車道「名古屋I.C.」から車で約30分
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から車で約10分
※駐車場189台(有料)



日本遺産のまち瀬戸市

瀬戸市文化振興財団 瀬戸市文化振興財団

瀬戸の鉄絵皿

瀬戸蔵ミュージアム企画展

江戸時代幕藩体制下の瀬戸は18の村々から構成されており、窯業生産が行われたのは瀬戸村・赤津村・下品野村・上水野村・下半田川村の5か村でした。江戸時代後期になると瀬戸窯の歴史の中でも大きな画期をなす、磁器生産がはじまります。磁器生産の開始にあたっては、それ以前より窯業技術の高まりも見られ、瀬戸窯の装飾技術のほぼすべてがこの時代に出揃いました。陶器生産においては鉄絵具による軽妙でのびのびとした筆運びの石皿や行燈皿、馬の目皿などが生産された一方、皿の縁に文様を丁寧に書き込んだ高麗手、南画系絵師による山水画やその影響を受けたものなど、雅趣あふれる作風も幅広く共存しました。

こうした江戸時代後期の瀬戸窯における鉄絵具を用いた製品群については、後の昭和時代の著述のなかでも見ることができます。民俗学者の柳田國男は『火の昔』で生活の道具としての行燈皿を紹介し、民藝運動の創始者である柳宗悦は『工藝の道』で、その絵付に健全な自然の恵みの美を見出しました。

本展ではこれら鉄絵製品の展覧に併せて、顔料としての鬼板(おにいた)や水打(みずうち)などの含鉄土石、元素としての鉄そのものについても改めて見ていきます。



松竹梅文石皿
江戸時代後期(19世紀前期)



唐草文皿
江戸時代後期

Dishes of Underglaze Iron Painting in Seto



吹絵人馬文行燈皿 江戸時代後期



夕景帰帆船六角皿 江戸時代



祥瑞文蓋付鉢 江戸時代

近隣施設のご案内

* 休館日等詳しい情報は各館へお尋ねください。

愛知県陶磁美術館

TEL 0561-84-7474

●2025年3月31日(月)まで休館

瀬戸市美術館

TEL 0561-84-1093

●企画展「中谷聡石彫展」

2023年12月2日(土) - 2024年2月4日(日)

●東洋陶磁学会設立50周年大会開催記念 企画展「瀬戸の近代陶磁」

2023年12月2日(土) - 2024年4月14日(日)

瀬戸市新世紀工芸館

TEL 0561-97-1001

●展示棟企画展「瀬戸市新世紀工芸館 第20期研修生修了作品展 第21期研修生作品展」

2024年1月20日(土) - 3月17日(日)

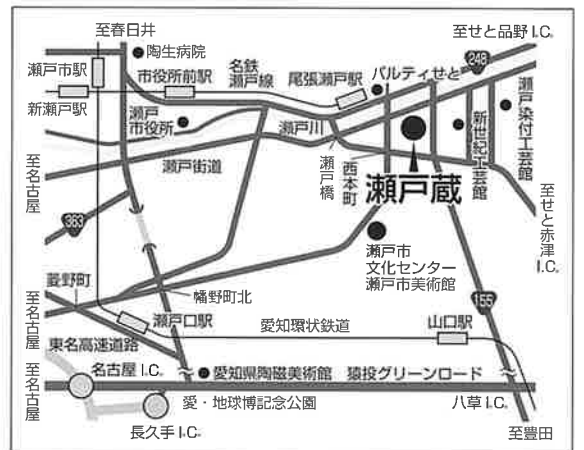
瀬戸染付工芸館

TEL 0561-89-6001

●企画展「瀬戸染付物語 一文字の景色一」

2024年1月10日(水) - 3月24日(日)

会場案内図



(交通アクセス)

名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から徒歩5分、東名高速道路「名古屋I.C.」から車で約30分
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」から車で約10分

※駐車場189台[有料(最初の1時間無料。以降1時間毎に100円)]

瀬戸蔵ミュージアム
SETO-GURAMUSEUM

〒489-0813 愛知県瀬戸市瀬所町1番地の1 TEL.(0561)97-1190
URL: <http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2011031500146/>

